

事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ~ 平30年3月15日
調査研究事項	<p>委託研究 ></p> <p>教育機会を求める、より多くの希望者にその機会を提供するための取組や課題について、次の事項に関する調査研究を実施する。</p> <p>ア．義務教育未修了者に関すること</p> <p>エ．外国籍の者に関すること</p> <p>オ．その他既存の夜間中学における教育機会の提供拡充に資すること</p> <p>【具体的な研究例】として</p> <p>ア．高齢な義務教育未修了者への支援について</p> <p>エ．外国籍の者に関する支援方法</p> <p>オ．交流活動等を通じた学習による今後の夜間学級のあり方。義務教育学校の特性を生かした校内での交流のあり方</p>
調査研究のねらい	<p>主に下記の4点について取り組み、今後の夜間学級のあり方についての研究を推進する。</p> <p>さつき学園夜間学級は主に日本国籍、中国・台湾国籍、韓国・朝鮮国籍の方が在籍している。</p> <p>その中で、</p> <p>ア．日本国籍、韓国・朝鮮国籍の生徒は高齢化がすすみ病気等に悩む生徒が多い。生徒指導や教育相談のみならず生活相談等、生徒に寄り添い学習できる環境を整えていくために必要な事柄を研究する。</p> <p>エ．本夜間学級では中国から引揚帰国した生徒や新渡日の生徒が全体の約半数を占めており、最近では、ネパール国籍、パキスタン国籍、アフガニスタン国籍の生徒が入学してきている。これらの生徒は日本の義務教育の学習内容を理解する以前に「日本語が話せない問題」を抱えており、これらの生徒の抱えている諸問題解決のための効果的な学習指導や生徒指導のあり方について研究していく。</p> <p>オ．公立中学校夜間学級の存在が世間一般に認知されているとは言いがたい。そこで交流活動等を通して今後の夜間学級のあり方を研究していく。さつき学園夜間学級は、「施設一体型義務教育学</p>

	<p>校」として開校しており、義務教育9年間を見通し、学校・家庭・地域が力を合わせ、一体となってすすめていく教育活動を踏まえた交流活動の位置づけについても研究を進める。</p>
<p>調査研究の成果</p>	<p>1. 【毎月】職員会議の中で定例として「クラスの様子」を位置づけた。その中で、生徒一人ひとりの課題や長欠者についての教職員も同じスタンスで対応できるように共通理解ができた。会議後、定期的に長期欠席生徒には電話、郵送等による連絡を行うことで生徒から学校に連絡を入れることができた。</p> <p>また、日本国籍、韓国・朝鮮国籍の生徒は高齢化がすすみ病気等に悩む生徒が多いため、生徒指導や教育相談のみならず生活相談等、生徒に寄り添い学習できる環境を整えていくために在住市の市役所や病院に付き添った。本年度は3名の生徒の要望に応えた。</p> <p style="text-align: center;">関連のねらい(ア) 経費</p> <p>2. 【随時】中国からの引揚帰国・新渡日生徒に対する指導を行うために翻訳及び通訳を依頼することにより、生活に困窮していた引揚帰国者親子が生活保護を受給できることになり、安心して授業を受けることができた。</p> <p>アフガニスタン国籍生徒、中国籍生徒を多言語進路ガイダンス等に保護者とともに参加させることができた。</p> <p style="text-align: center;">関連のねらい(エ)</p> <p>【週3回】近年増えてきた高等学校進学対策として授業時間前に日本語による問題の読み取り方を含めた数学、英語等の個別指導を6名の外国籍生徒に対して行ったところ、今年度は大阪府立門真なみはや高等学校に特別選抜に3名が受験した。定員14名のところに19名の志願者がいたが、全員合格することができた。</p> <p style="text-align: center;">関連のねらい(エ)</p> <p>3. 【随時】今年度も守口市および他市の小学校、中学校、高等学校、社会人の団体との交流活動を積極的に進めた。</p> <p>この中で夜間中学生が自らを振り返り自分の思いを積極的に発言できるよう、交流資料に生徒が授業等で書いた作文を掲載した。</p> <p>交流後の感想から、交流相手にも学習の大切さや人権の大切さ、平和の大切さを感じていただいたと分かった。</p> <p>近年、年30回以上の交流申し込みがあり、夜間中学生は自分の思いを語り自分の思いや考えをまとめることにもつながった。</p> <p style="text-align: center;">関連のねらい(オ) 経費</p> <p>4. 【2～3月】デジタル写真等を活用しながら、生徒文集「まなび」を作成し、交流活動の取り組みや学習成果の確認を行うとともに、「みんなで語り合う会」で生徒自身での意見交</p>

換を行った。

講師には2～3名の生徒が作文を読み上げるので、あらかじめ中国語で配布できるよう翻訳を依頼した。

しかし、日常生活で思いを伝えられず、学習に集中することができない生徒もいるので、外部人材による生活相談の時間を増やしていかなければならない。経費 経費